

関節リウマチを持つ方に対するプレコンセプションケアの情報提供の充実のための研究

研究分担者 磯島 咲子 昭和大学病院リウマチ膠原病内科 助教

研究要旨

【目的】関節リウマチと妊娠に関する国内外の診療ガイドラインおよび文献を収集し、プレコンセプションに必要な情報提供内容を選別する目的で本研究を実施した。

【方法】2000年1月1日から2023年7月31日の期間のPubmedと医中誌を用いてシステマティックレビューを実施した。

【結果】489件（Pubmed312件、医中誌177件）が該当論文として抽出され、①性成熟期女性での疾患の頻度②一般疾患予後③疾患と妊孕性（妊娠しやすさ）④疾患の妊娠・分娩や子どもへの影響⑤妊娠の疾患への影響⑥現在の治療薬や以前に受けた治療の妊娠や子どもへの影響⑦妊娠前の疾患コントロールの必要性、薬物の変更や変更のタイミングについて⑧授乳と薬物療法について⑨各疾患のプレコン介入の効果、に沿ってレビューした。

【考察】他研究の患者のニーズ調査、医師のプレコンセプションケアの実態およびニーズの調査から得た双方のニーズと問題点を抽出し、本研究で得られた情報提供内容を効果的に伝えていくことが重要である。

【結果】RAと妊娠に関する情報は蓄積されつつあり、プレコンセプションケアに必要な文献収集をした。

研究協力者

三浦 瑤子 昭和大学病院リウマチ膠原病内科
助教

A. 研究目的

プレコンセプションケアは適切な時期に適切な知識・情報を女性のみならず男性にも提供し、将来の妊娠のためのヘルスケアを行うことである。女性の晩婚化や生殖医療技術の向上などに伴う出産年齢の高齢化や、医療水準向上によって慢性疾患をもった女性が妊娠可能となるなど、ハイリスクと考えられる妊娠が増加している。よって生殖可能年齢の女性およびパートナーに対し、遅滞なく包括的プレコンセプションケアを提供する体制を整える必要がある。

リウマチ・膠原病については最近のシステマティックレビューによると、プレコンセプションケアを受けることで妊娠の転帰が改善するだけでなく、葉酸摂取や禁煙などの一般的な行動変容も生じていた。さらに、慢性疾患に対するプレコンセプションケアによって、薬剤コンプライアンスが改善し、疾患コントロールがより良好となることも妊娠の転帰改善に影響している可能性が示唆されている。プレコンセプションケアを実施するためには患者のニーズを把握して適切な情報を提供することである。

よって本研究では1)患者から妊娠・出産・子育てに関する情報ニーズや主治医等から受けている情報提供の現状把握を行う。2)それらをもとに、医療・保健従事者等の現場での活用を想定した基礎疾患を持つ方を対象とした妊娠・出産・子育てに関するプレコンセプションケアの情報提供資料を作成することを目的とする。

B. 研究方法

1) 関節リウマチをもった女性のプレコンセプションケアに関する文献レビュー

Research Questionを「関節リウマチ/全身性エリテマトーデス」を持つ妊娠前の女性に対して必要な情報提供、教育、指導は何か？とし、PI(orE)COS (COは省略)は下記とした。

PICOS

P: rheumatoid arthritis; reproductive age (15~49 years old) women; who wish to conceive; pre-reconception care; preconception*; pre-conception*; preconceptional*; pregestation*; pre-gestation*; periconception*; peri-conception*; interconception*; interconceptional*; prepregnancy*; pre-pregnancy*; reproductive*; before pregnancy; prior pregnancy; 妊娠前; 妊娠可能年齢; 生殖可能年齢; プレコンセプションケア; プレコンセプション; リプロダクティブ; 妊娠を計画している; 妊娠を考えている; 妊娠を望んでいる

I: family planning service; family planning center; family planning education; manag*; plan*; counsel*; service*; pregnancy planning; reproductive planning; lifestyle*; counselling; 情報提供; 教育; 相談; 生活指導; 妊娠(の)計画; ケア; 妊娠に向けて; 妊娠(の)予定; 計画妊娠
Or

E: effect on pregnancy; effect of preconception*; negative effect on pregnancy; side effect on pregnancy; influence; potential to influence pregnancy outcomes; 妊娠への影響; 妊娠転帰; 妊娠アウトカム; 薬の妊娠への影響; 妊娠による影響; 妊孕性の変化

スタディデザイン:優先順位を下記とした。

システマティックレビュー→介入研究→観察研究→総説→症例検討。2000年1月1日から2023年7月31日の期間のPubmedと医中誌で検索した。

2) リウマチ専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査

分担報告書(荒田尚子 タイトル:各疾患専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査)に記載した。

3) 関節リウマチをもった女性に対するFocus group interviewingによる患者ニーズ調査

分担報告書(大田えりか タイトル:各疾患専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査)に記載した。

(倫理面への配慮)

2)の調査に関しては、国立成育医療研究センター倫理審査委員会にて承認を得て行った(承認番号:2023-228)。3)の調査に関しては、聖路加国際大学倫理審査委員会にて承認しようにんを得て行った(承認番号:23-A033)。

C. 研究結果

1) 関節リウマチをもった女性のプレコンセプションケアに関する文献レビュー

文献検索の結果、489件(Pubmed312件、医中誌177件)が該当論文として抽出された。それらを参考文献として、①性成熟期女性での疾患の頻度、②一般疾患予後、③疾患と妊孕性(妊娠しやすさ):疾患が妊孕性に影響していないか?④疾患の妊娠・分娩や子どもへの影響:病気を持っていることで妊娠や分娩、子どもに影響するか?どのような影響があるか?⑤妊娠の疾患への影響:妊娠することで、疾患自体は悪化するか?産後短期的、長期的に疾患に影響するか?⑥現在の治療薬や以前に受けた治療の妊娠や子どもへの影響:治療薬は妊孕性、流産や催奇形性、胎児毒性、長期的に子どもへ影響するか?⑦妊娠前の疾患コントロールの必要性、薬物の変更や変更のタイミングについて(避妊が必要な場合の適切な避妊の方法について)⑧授乳と薬物療法について

⑨各疾患のプレコン介入の効果、に沿ってレビューした(結果は添付資料を参照)。

2) リウマチ専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査

分担報告書(荒田尚子 タイトル:各疾患専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査)に記載した。

3) 関節リウマチをもった女性に対するFocus group interviewingによる患者ニーズ調査

分担報告書(大田えりか タイトル:各疾患専門医を対象としたプレコンケアの実態およびニーズの調査)に記載した。

D. 考察

レビューに示す通り、関節リウマチ(RA)ではしっかりとプレコンセプションケア実施することでよりよい妊娠転帰が得られていることが報告されており、欧州リウマチ学会(EULAR)からもSLEやAPSに対してプレコンセプションケアの実施が推奨されている。プレコンセプションケアを実施することは妊娠予後の改善につながるだけでなく、母乳哺育率への効果も報告されている。

より効果的なプレコンセプションケアを実施するにあたり大きく分けて2つの要点を考える。

①患者のニーズを把握し、その情報の提供

RA患者を対象とした既存のアンケート調査ではプレコンセプションケアが患者の満足するレベルで行われていないことが報告されている。

よって研究結果2)のFocus group interviewingで明らかとなった患者からのニーズに関して適切に対応したプレコンセプションケアを実施が求められている。

②医療者側の正確な知識と情報ツール

プレコンセプションケアを行う上での問題点として時間的制約や知識不足と回答した医師はそれぞれ90.3%、65.4%であった。また、91.4%の医師がプレコンセプションケアに関して学ぶ機会が必要であると回答していた。これら研究結果3)より、正確な知識を医療者が学ぶためのツールと医療者が患者へプレコンセプションケアを実施する際に利用可能な情報提供資材が重要となってくる。

今後は本研究のレビュー結果も考慮しながら、リウマチ診療におけるプレコンセプションケアのチェックリストを検討していく。

関節リウマチ領域のチェック項目として以下を挙げる(妊娠前)

ライフステージに応じた関節リウマチ患者支援ガイドより一部改変

妊娠について主治医、家族と相談する。

RAの疾患活動性が抑えられているか確認。

妊娠に向けた薬剤調整を行う。MTXは中止後一月経周期を見送る必要がある。

RAの治療内容、薬剤を把握しておく。腎機能障害の有無も確認。

抗SS-A抗体、抗リン脂質抗体の確認

主治医から妊娠許可が出ていない場合は確実な避妊を行う。避妊方法を確認する。

かかりつけの産婦人科医を見つける。

子宮がん検診、乳がん検診を定期的に受診する。

妊娠歴の確認を行い、ハイリスク妊娠の経過があれば妊娠前の産婦人科受診を実施

風疹・麻疹の既往歴や予防接種歴を確認する。

感染症に注意する(風疹・B型、C型肝炎・性

感染症等)

生活習慣の改善

- 適正体重 (BMI:19-24 程度)を保つ。
- バランスのとれた食生活、運動習慣を心がける。
- アルコール、タバコを控える。
- 食事やサプリメントから葉酸を積極的に摂取する。
- 歯のケア(歯周病等)を行う。
- ストレスをためない。

E. 結論

RA患者におけるプレコンセプションケアに関する文献レビューを行った。近年RAと妊娠に関する情報を蓄積されつつあるため、患者のニーズに合わせ

て情報提供を行うことが重要である。

F. 研究発表

1. 論文発表
該当なし

2. 学会発表
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし

2. 実用新案登録
該当なし

3. その他
該当なし